

# 2026年3月期 決算説明会

2026年5月13日

 山一電機株式会社

- 【1】 2025年度（2026年3月期） 業績結果
- 【2】 第4次中期経営計画の結果
- 【3】 2026年度（2027年3月期） 業績予想

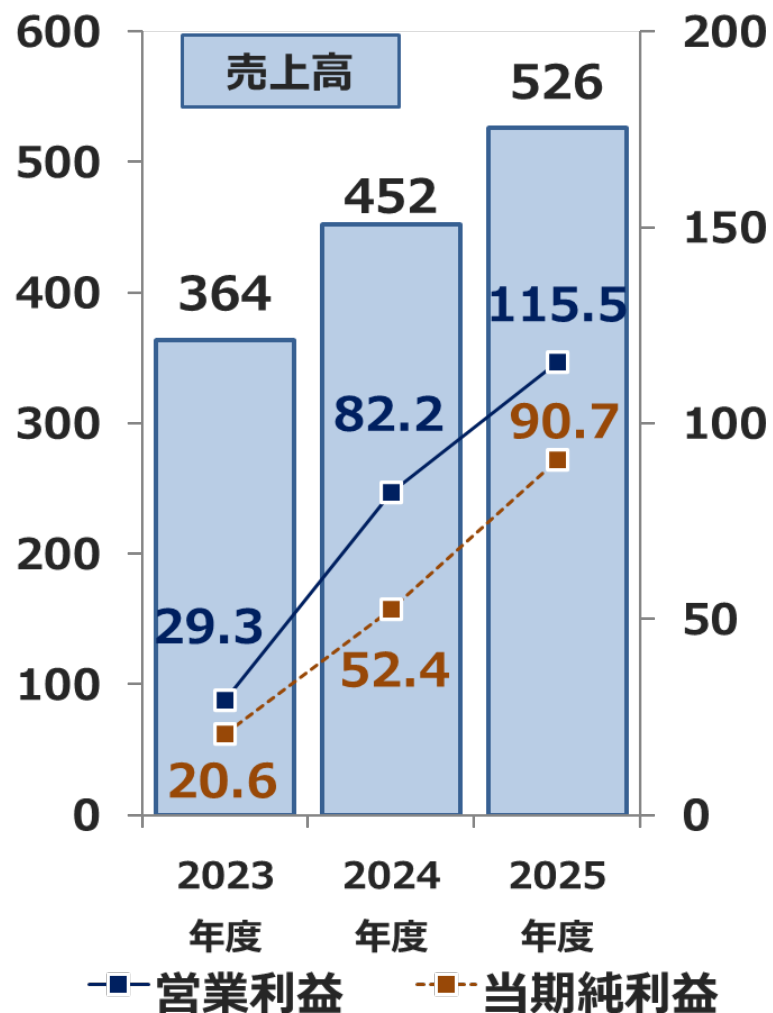
## 本説明資料内に記載の各事業名の略称について

事業名	事業名略称
テストソリューション事業	TS事業
コネクタソリューション事業	CS事業
光関連事業	OPT事業

# 【1】 2025年度（2026年3月期） 業績結果

## ◆ 業績結果

単位：億円



通期連結期間として過去最高の売上高及び利益を更新いたしました。

単位：億円	2024年度 通期実績	2025年度		前年 同期比	前年同期 増減率
		'26年2月4日 公表値	通期実績		
売上高	452	520	526	73	16.3%
営業利益	82.2	110.0	115.5	33.3	40.5%
経常利益	76.8	111.5	121.2	44.3	57.7%
当期純利益	52.4	80.5	90.7	38.3	73.1%
EPS (円)	259.47	437.01	492.25	232.78	----
BPS (円)	2037.62	----	2521.98	484.36	----

為替レート	2024年度	2025年度	増減
USD (円)	152.56	150.75	▲ 1.81
EUR (円)	163.73	174.76	11.03

# 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

## ◆事業別業績結果

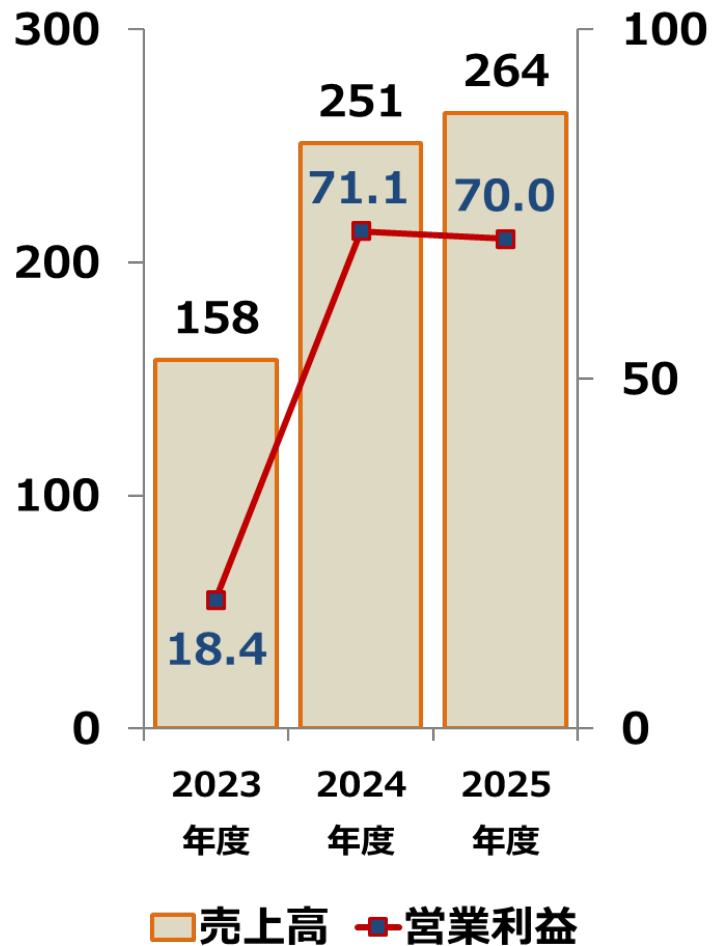
単位：億円		2024年度 通期実績	2025年度		前年 同期比	前年同期 増減率
			'26年2月4日 公表値	通期実績		
TS事業	売上高	251	257	264	13	5.2%
	営業利益	71.1	65.0	70.0	▲ 1.0	-1.4%
CS事業	売上高	189	248	247	57	30.6%
	営業利益	12.1	43.2	44.0	31.9	263.2%
OPT事業	売上高	12	15	15	2	23.9%
	営業利益	▲ 0.2	1.8	2.0	2.3	----
その他	営業利益 (連結調整額)	▲ 0.7	0.0	▲ 0.6	0.1	----
合計	売上高	452	520	526	73	16.3%
	営業利益	82.2	110.0	115.5	33.3	40.5%

# 【1】 2025年度（2026年3月期） 業績結果

## ◆ TS事業 業績結果

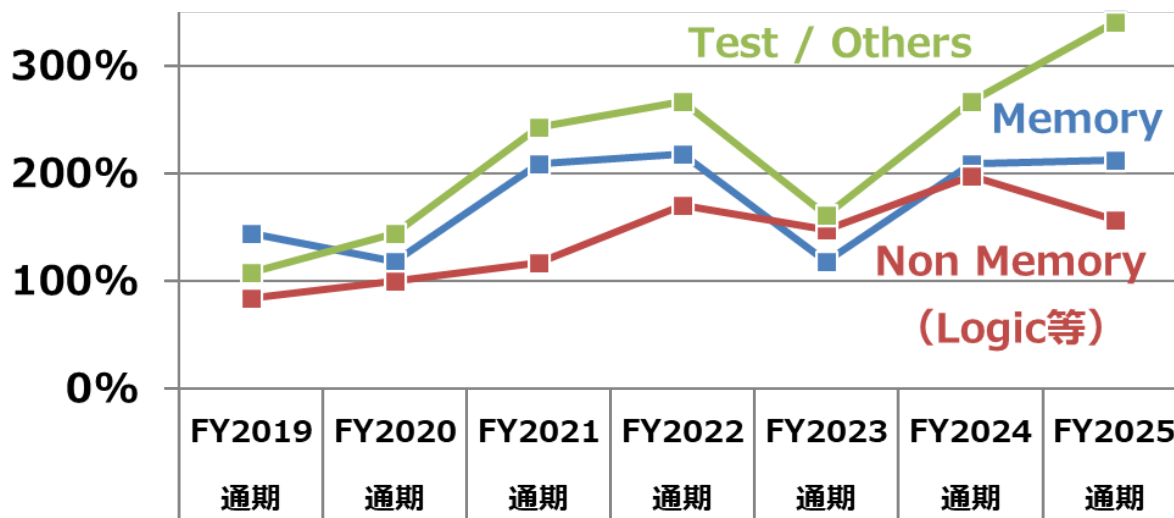
単位：億円 TS事業

TS事業	前年同期比	前年同期増減率
売上高	13億円	5.2%
営業利益	-1.0億円	-1.4%



- ◆ テスト用ソケット分野では、主軸のスマートフォン及びP C、自動車やウェアラブル機器向け製品の販売が好調に推移しました
- ◆ バーンインソケット分野では、自動車用ロジック半導体向け製品を中心に投資先送りにより、売上及び利益に影響を受けましたが、メモリ半導体向け製品では下期に入り投資が再開され回復傾向となりました
- ◆ 事業全体では、金や銅等の原材料価格高騰により利益面に約6億円の影響を受けました

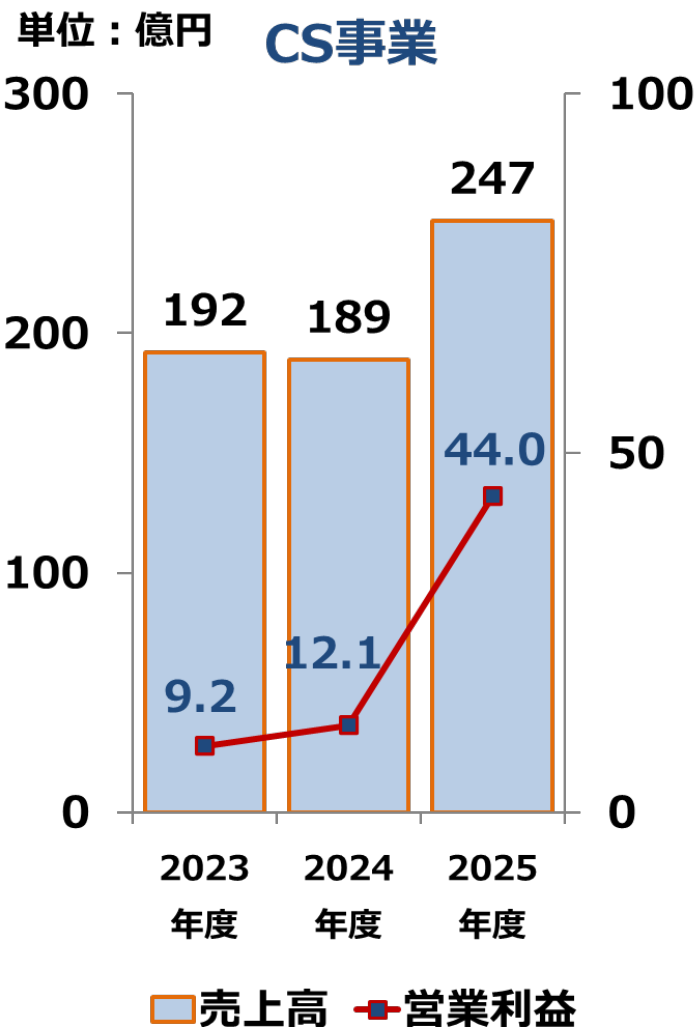
2018年度通期売上を100%としての推移



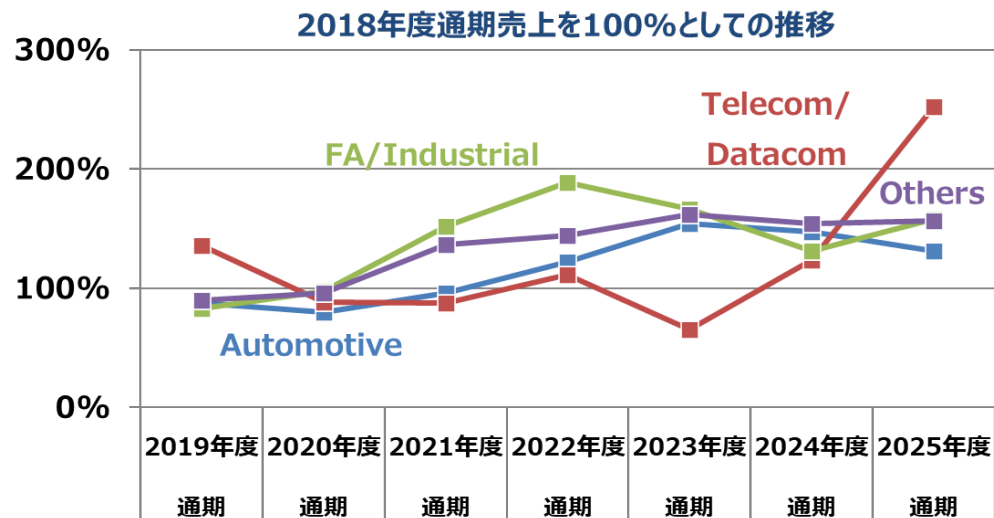
# 【1】 2025年度（2026年3月期） 業績結果

## ◆ CS事業 業績結果

CS事業	前年同期比	前年同期増減率
売上高	57億円	30.6%
営業利益	31.9億円	263.2%



- ◆ 通信機器向け製品は、基幹系通信機器向けの好調に加え、A Iを含むデータセンター向けが大幅に増加したことにより好調な結果となりました
- ◆ 産業機器向け製品は主要市場である欧州顧客での在庫調整の底打ちにより緩やかに回復いたしました
- ◆ 車載機器向け製品は世界的な需要低迷やE V車の減速などの影響を受け低調な結果となりました
- ◆ 事業全体では、金や銅等の原材料価格高騰の影響を受けましたが、CS事業として売上高、営業利益共に過去最高となりました。



# 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

## ◆ 為替影響

通貨	2024年度	2025年度	増減
USDレート（円）	152.56	150.75	▲1.81
EURレート（円）	163.73	174.76	+11.03



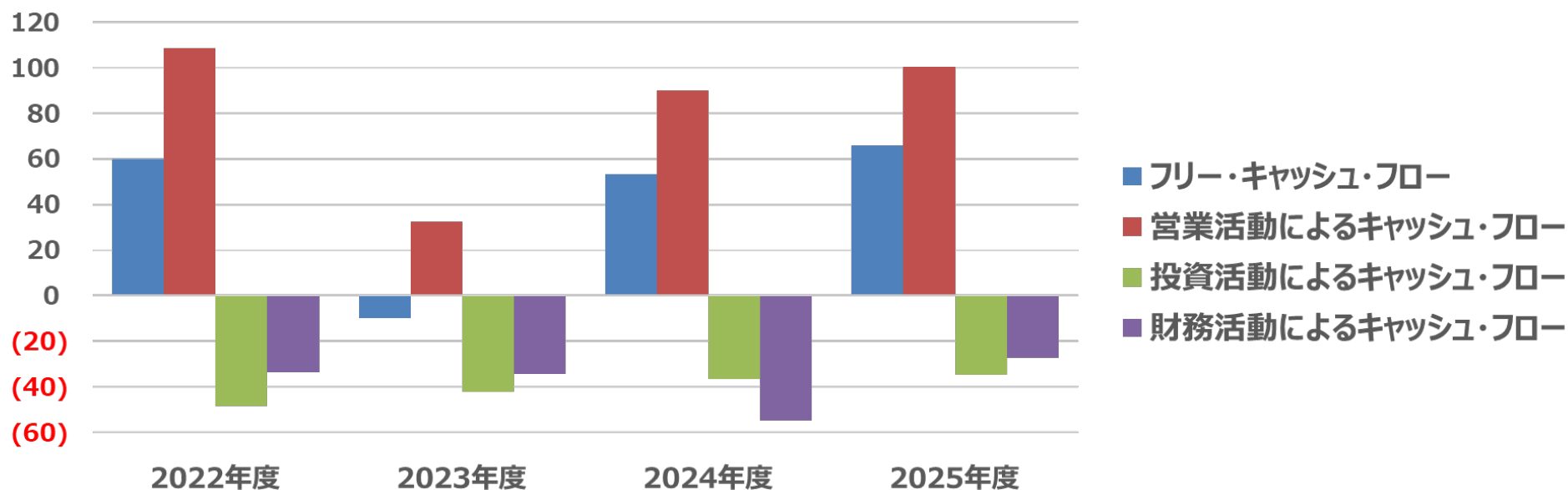
対前年同期為替影響額	
売上高	2.3億円
営業利益	▲1.7億円

通期の為替感応度 (1円影響額/年間)	売上高影響額	営業利益影響額
USD	2.4億円	1.5億円
EUR	0.6億円	0.1億円

# 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

## ◆ キャッシュフロー

単位：億円	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比 (増減額)
営業活動によるキャッシュ・フロー	108.4	32.3	90.0	100.5	10.4
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 48.5	▲ 42.2	▲ 36.5	▲ 34.6	1.8
フリー・キャッシュ・フロー	59.8	▲ 9.9	53.4	65.8	12.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 33.5	▲ 34.3	▲ 54.9	▲ 27.3	27.5
現金及び現金同等物の期末残高	167.3	130.7	127.9	172.3	44.4

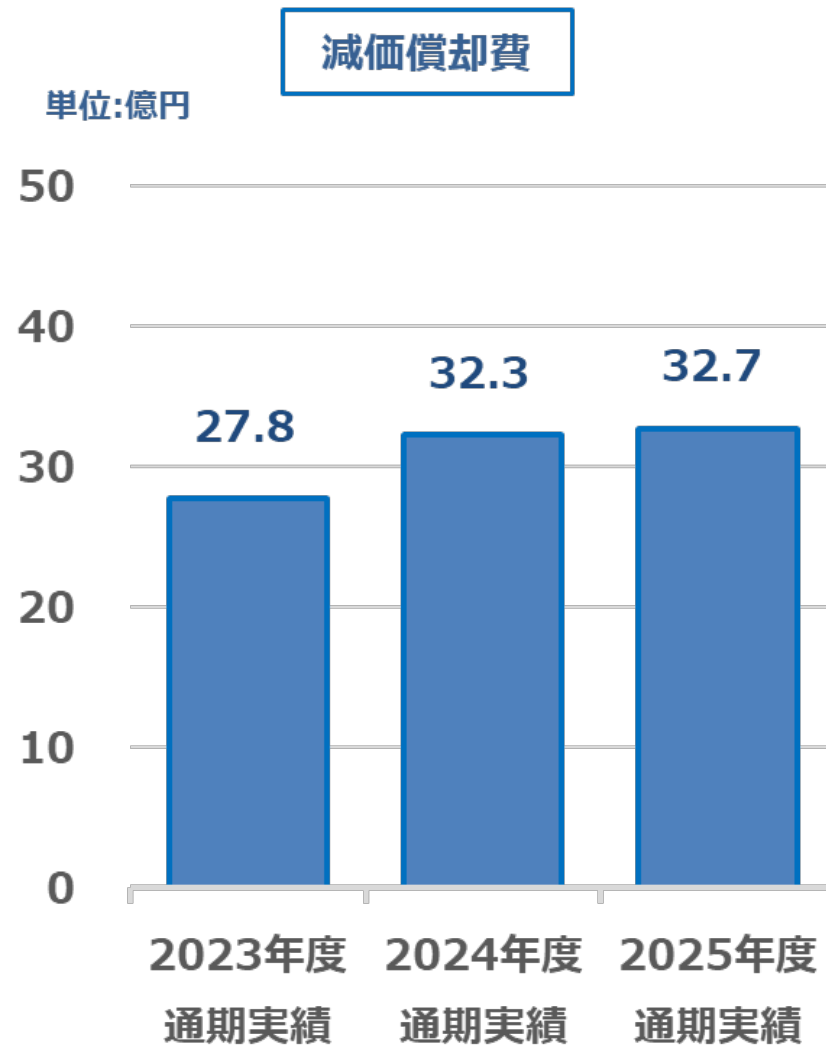
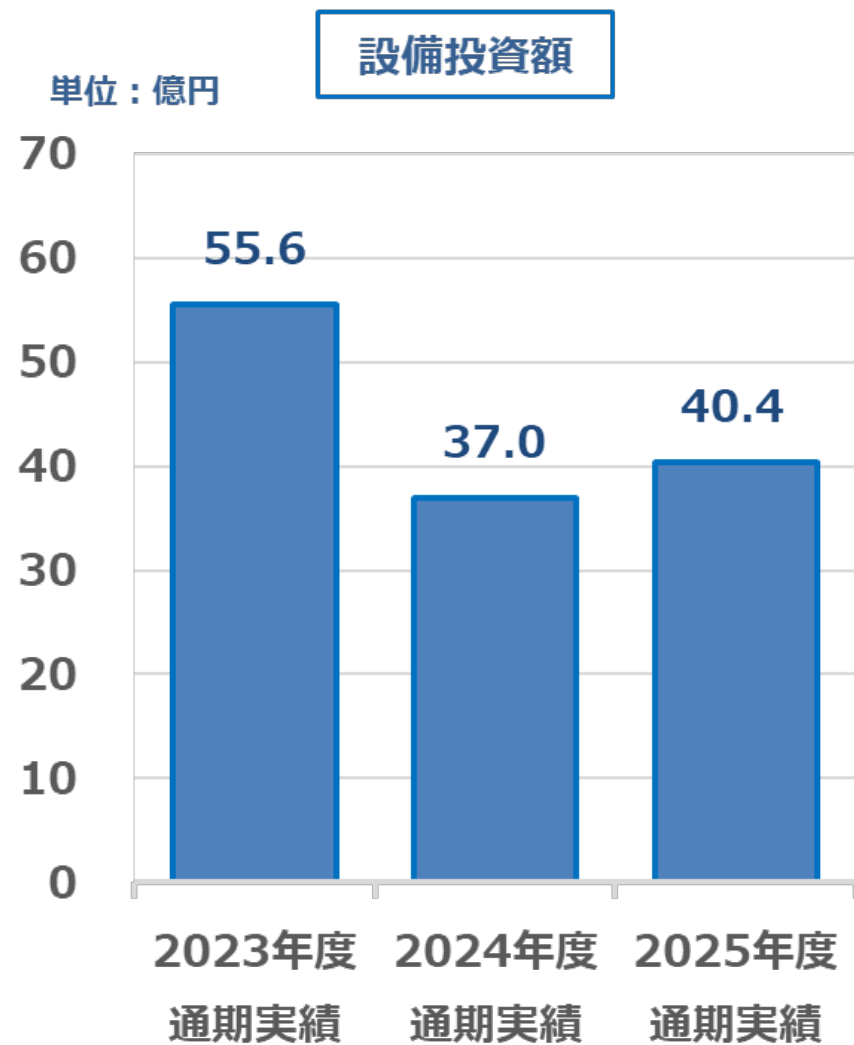


# 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

## ◆貸借対照表

単位：億円	2025年 3月末	2026年 3月末	増減額	注記
流動資産	321.1	404.8	83.7	現金及び預金：48.0億円増加 棚卸資産：23.2億円増加 売掛金：22.3億円増加 その他流動資産の預け金：19.4億円減少
固定資産	212.7	227.6	14.8	使用権資産：3.7億円増加 次期基幹システム構築に伴うソフトウェア仮勘定：6.2億円増加
資産合計	533.8	632.5	98.6	
流動負債	104.4	132.6	28.1	支払手形及び買掛金：12.9億円増加 賞与引当金：7.0億円増加
固定負債	32.7	32.8	0.1	
負債合計	137.1	165.4	28.3	
純資産合計	396.7	467.0	70.2	
負債純資産合計	533.8	632.5	98.6	

◆ 設備投資・減価償却費



# 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

## ◆ 環境トピックス

山一電機グループは、2030年にCO<sub>2</sub>排出量を2021年度の前年度基準で40%削減を、2050年のカーボンニュートラルを目標に掲げています。2024年、新たに国内（佐倉事業所 第2棟）・海外（ドイツ工場）の2拠点において太陽光パネルの新設を行いました。2025年にフィリピンの新たな生産拠点（PMI 第3工場）に太陽光パネルを設置し、稼働開始しました。今後も環境負荷の軽減に向け、グループ全体で取り組んでいきます。

	2020年10月	2024年5月	2026年1月稼働開始	2026年3月稼働開始
事業所名	佐倉事業所	佐倉事業所第2棟	Yamaichi Electronics Deutschland Manufacturing GmbH(YDM)	Pricon Microelectronics,Inc. 第3工場
所在地	千葉県佐倉市	千葉県佐倉市	ドイツ	フィリピン
1枚あたりのパネル容量	445W	585W	430W	433W
枚数	1,530枚	630枚	1,432枚	854枚
蓄電池	NAS電池システム 容量2,400kWh 出力400kW		----	----
年間発電量	1,314,651kWh (2024年度実績)		約494,900kWh	約 698,300 kWh
CO <sub>2</sub> 削減見込み量	350t	190t	339t	372t
自家発電率	25%		33%	26%



佐倉事業所



佐倉事業所第2棟



YDM(ドイツ)



PMI 第3工場(フィリピン)

## 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

### ◆ 株主還元：2025年度 自己株式取得内容

取締役会決議内容			自己株式取得実績（2025年度分のみ）		
決議日	取得上限株数	取得上限金額	取得株数	取得金額	取得期間（受渡日基準）
2025年3月21日	1,250,000株	2,500,000,000円	1,004,400株	1,906,971,200円	2025年4月3日～2025年4月16日

#### （ご参考）

2025年3月21日開催の取締役会に基づく自己株式の取得では、

2024年度取得分として、取得株式数 245,600株、株式取得金額 561,463,400円 を実施しております

2025年度取得分との合計は、取得株式数 1,250,000株、株式取得金額 2,468,434,600円 となります

## 【1】 2025年度（2026年3月期）業績結果

### ◆ 2025年度 配当について

- 当社グループは、2023年度を初年度とする3カ年中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）において、配当性向は30%を目指すことを公表しております。本年度も通期業績結果に基づき、期末配当を113円に決定いたしました。

	2025年5月13日 公表値	2026年2月4日 公表値	2026年5月13日 公表値
1株当たり配当金	90円 中間配当 35円 期末配当 55円	132円 中間配当 35円 期末配当 97円	148円 中間配当 35円 期末配当 113円
配当総額	---	---	2,729百万円
配当性向（連結）	30.1%	---	30.1%
純資産配当率（連結）	---	---	6.5%

- なお、2026年3月期の期末配当につきましては、2026年6月に開催予定の定時株主総会に付議する予定であります。

## 【2】 第4次中期経営計画の結果

### ◆ 中期経営計画の方針

2023年度を初年度とする3か年の山一電機グループ新中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）は、「お客様に満足いただける製品・サービスを提供できる会社」に成長することを引き続き目指すこととし、この経営目標の達成にあたり「お客様と共にグローバルに連携し、未来につながる製品の創造」という観点から取り組んでまいります。戦略としては、「成長戦略」と「構造改革」を更に深耕し、お客様のニーズに応えられる企業に成長するとともに、より一層の財務体質の強化と将来の成長に向けた経営基盤の強化を図ってまいります。

#### 【基本戦略】

－ 経営目標 －

お客様に満足いただける製品・サービスを提供できる会社

経営基盤の強化

お客様と共にグローバルに連携し、  
未来につながる製品の創造

成長戦略

構造改革

#### 成長戦略

##### テストソリューション事業

Burn-In Memory : メモリ半導体の世代交代と伸びる市場に追随

Burn-In Logic : 市場拡大が見込まれる自動運転/ITSに対応した次世代半導体向け製品の拡充

Test Socket : 次世代ロジック半導体のテスト市場への参入

##### コネクタソリューション事業

通信市場：他社に先駆けた次世代プラットフォーム対応製品の開発

産機市場：産業用I/Oコネクタ製品のラインナップ拡充による欧州市場の更なる拡大と半導体製造装置セグメント製品の拡充

車載市場：ADAS/自動運転向け次世代高速伝送規格製品のラインナップ拡充とE Vソリューション分野への参入

##### 光関連事業

・産業機器・医療機器市場での拡大

・新規の技術開発と需要の開拓活動推進

#### 構造改革

品質・納期対応力の向上を図るために、サプライチェーンマネージメントを再構築し、グローバルのモノづくりの高度化と効率化および国内生産の強化を進めます。お客様に満足いただける製品・サービスを安定的に提供すべく、販売・開発・生産体制の構築と精密加工技術の強化を行ってまいります。

#### 業績目標

3か年（2024年3月期～2026年3月期）累計の連結営業利益250億円以上を目標に取り組んでまいります。

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	累計
連結売上高	420億円	470億円	500億円	1,390億円
連結営業利益	66億円	84億円	100億円	250億円

#### 投資計画

投資計画の3か年累計額は140億円とし、新中期経営計画の目標達成のため資金を投下いたします。

#### その他

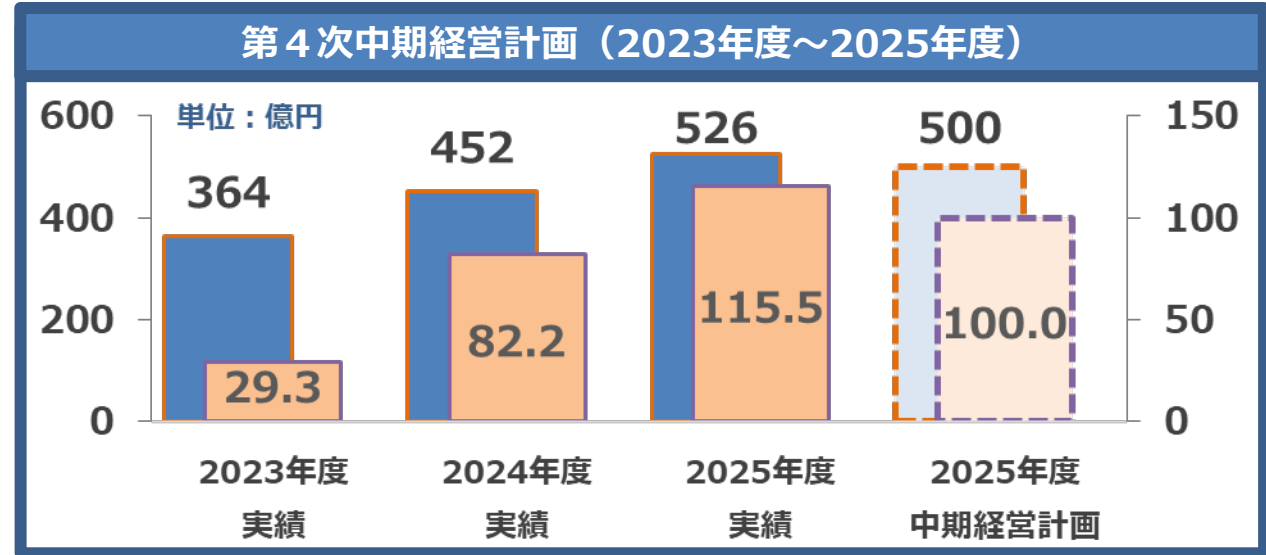
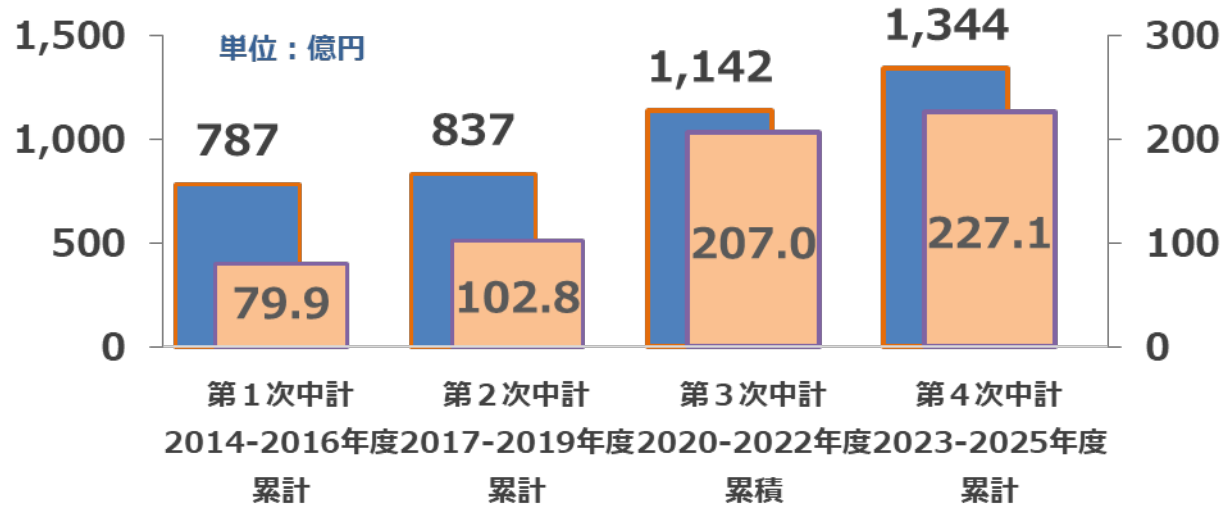
##### 目標値

- ・ROE10%以上
- ・連結配当性向30%
- ・総還元性向40%以上

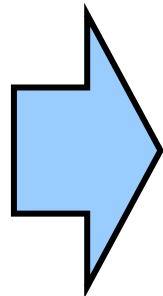
\* 想定為替レート 1米ドル=130.00円、1ユーロ=138.00円

## 【2】 第4次中期経営計画の結果

山一電機グループ第4次中期経営計画にて、最終年度（2026年3月期）に売上高500億円、営業利益100億円を超えることを目標の一つとしておりましたが、達成することができました。



	第4次中期経営計画目標値
連結売上高	1,390億円
連結営業利益	250億円
設備投資	140億円
ROE	10%以上
連結配当性向	30%
総還元性向	40%以上

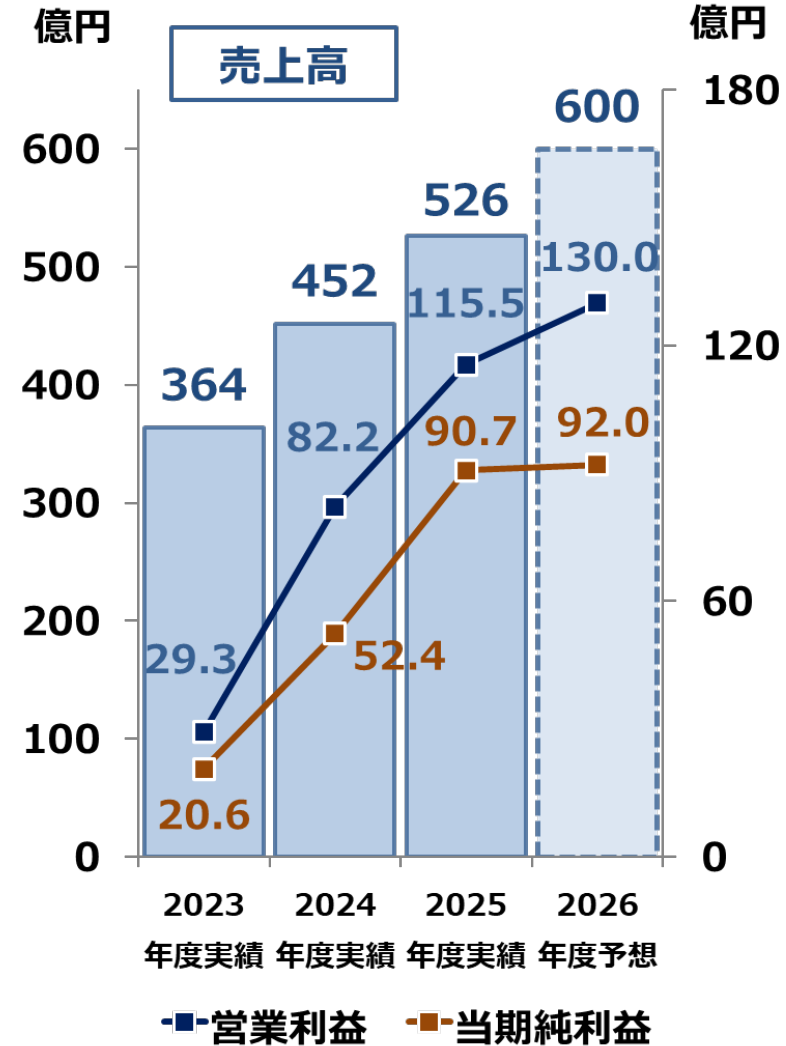


	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	第四次中計累計実績	達成率
売上高	364億円	452億円	526億円	1,344億円	96.7%
営業利益	29.3億円	82.2億円	115.5億円	227.1億円	90.9%
設備投資	55.6億円	37.0億円	40.4億円	133.2億円	95.1%
ROE	5.5%	13.5%	21.1%	----	----
連結配当性向	30.9%	34.3%	30.1%	----	----
総還元性向	64.7%	81.6%	51.1%	----	----

### 【3】 2026年度（2027年3月期）業績予想

#### ◆ 連結業績予想

◆ 昨今の中東情勢の悪化による原油価格や原材料価格の上昇やサプライチェーンの混乱等が懸念されますが、これらの影響を現時点で合理的に算定することが困難なため、本通期業績見通しには織り込んでおりません。今後、業績への影響が見込まれる場合には速やかに開示いたします。



単位：億円	2025年度 実績		2026年度 予想			
	上期	通期	上期	前年同期比	通期	前年同期比
売上高	267	526	322	54	600	73
営業利益	64.1	115.5	76.0	11.8	130.0	14.4
経常利益	64.9	121.2	75.0	10.0	128.0	6.7
当期純利益	46.5	90.7	54.0	7.4	92.0	1.2
EPS (円)	252.22	492.25	292.57	40.35	498.46	6.21

#### 2026年度 連結業績予想の前提となる為替レート

為替レート	2025年度通期	2026年度通期	前年同期増減
USD (円)	150.75	150.00	▲ 0.75
EUR (円)	174.76	175.00	0.24

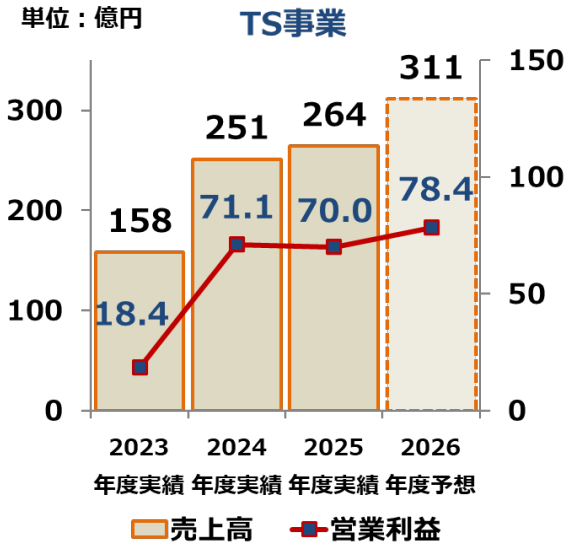
### 【3】 2026年度（2027年3月期）業績予想

#### ◆事業別 業績予想

単位：億円		2025年度 実績		2026年度 予想			
		上期	通期	上期	前年同期比	通期	前年同期比
TS事業	売上高	141	264	177	35	311	46
	営業利益	43.6	70.0	50.2	6.5	78.4	8.3
CS事業	売上高	117	247	137	19	274	26
	営業利益	18.6	44.0	25.0	6.3	50.0	5.9
OPT事業	売上高	8	15	8	▲ 0	15	▲ 0
	営業利益	1.1	2.0	0.8	▲ 0.3	1.6	▲ 0.4
その他	営業利益 (連結調整額)	0.6	▲ 0.6	0.0	▲ 0.6	0.0	0.6
合計	売上高	267	526	322	54	600	73
	営業利益	64.1	115.5	76.0	11.8	130.0	14.4

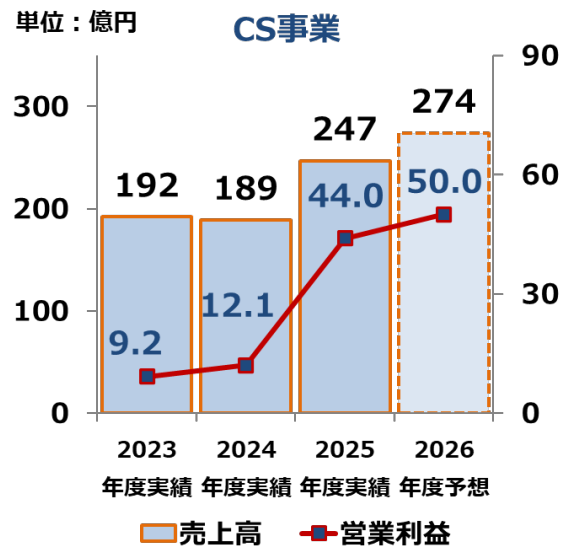
## 【3】 2026年度（2027年3月期）業績予想

### ◆ 事業別 業績予想



#### TS事業：

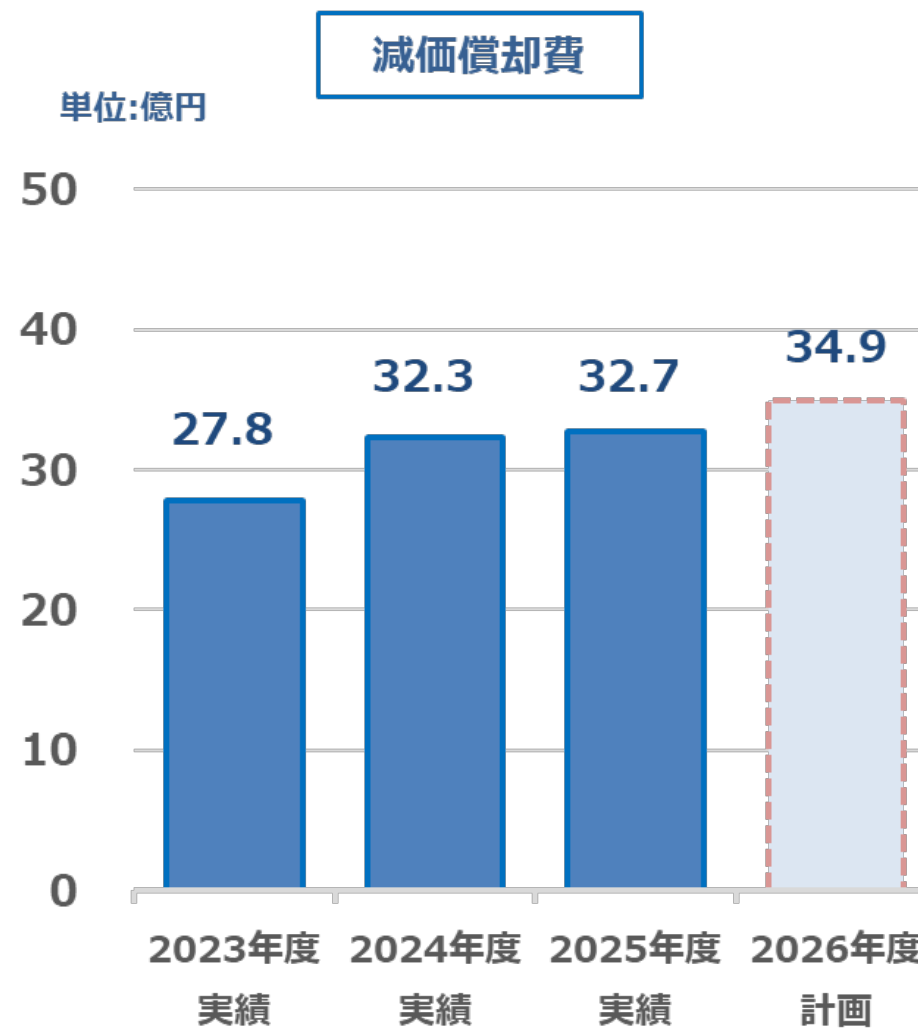
- ◆ テスト用ソケットは、主力のスマートフォン及びP C向けはA I機能強化で伸長、また車載・ウェアラブル機器等、裾野拡大による成長を見込んでおります
- ◆ メモリ半導体用ソケットは、世界的な供給不足に伴うソケットの需要増を受け、伸長を見込んでおります
- ◆ ロジック半導体用ソケットにつきましては、自動車向け製品の回復には時間を要する見込みですが、A I関連やP C・サーバー向け製品の商談拡大に引き続き注力してまいります



#### CS事業：

- ◆ 通信機器市場向け製品は、A Iを含むデータセンターへの投資が加速しサーバー及び周辺機器や基幹系通信装置の需要拡大を見込んでおります
- ◆ 産業機器市場向け製品は、主要市場である欧州顧客での在庫調整の底打ちにより緩やかな回復の継続を見込んでおります
- ◆ 車載機器市場向け製品は、世界的な自動車の需要低迷やE V車減速などの長期化が懸念されます

## ◆ 設備投資・減価償却費計画



# ご清聴ありがとうございました

(2026年度 1 Q決算発表日 2026年8月5日 (水) 15 : 30予定)

## ※注意事項

本資料は、2026年5月13日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更する場合があります。

問合せ先：経営管理グループ 古畑 利之

TEL：03-3734-7661 FAX: 03-3734-0120

<http://www.yamaichi.co.jp>

E-mail: [furuhata@yamaichi.co.jp](mailto:furuhata@yamaichi.co.jp)